総務常任委員会	10月26・27日	新潟県新潟市、見附市
健康福祉常任委員会	10月24・25日	三重県四日市市、愛知県大府市

環境問題・地域交通　これからの2大課題を学ぶ

生活環境常任委員会

今後も学びたい環境モデル都市　長野県飯田市

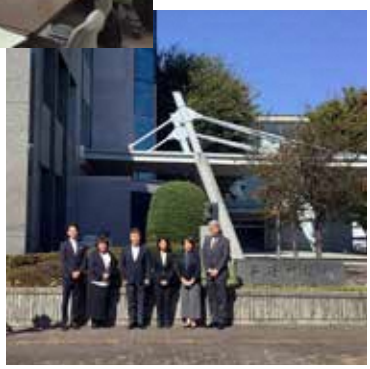
1992年、国連でのスピーチを聞いた当時の市長が、21世紀は環境の時代になると、市の基本計画に「人も自然も美しく、輝くまち飯田 - 環境文化都市」を掲げたという飯田市。その歴史の積み上げ、多面的な取組みは、「2050年いいだゼロカーボンシティ宣言」が一朝一夕のものではないと思わせる内容でした。この「宣言」は、市、市議会、商工会議所、市内全小中学校、そして長い間の活動で理解を得ている市民も巻き込んだ取組みになっています。

1996年に作られた「いいだ環境プラン」はすでに５回目の改定がおこなわれており、活動のプラットフォーム、愛称「うごくる。」は、市だけでなく県や信用金庫も巻き込んで、高齢者から子どもたちまで、幅広い世代の方々が、ゲームをしたり、意見を出し、実践しあう場をつくるなど、掛け声だけでなく日常化していることに素晴らしさを感じました。1997年から太陽光発電補助制度を開始し、街の屋根にも設置が目立ちました。

今回は、脱炭素に向けた市民の活動や小水力発電の現場などを直接見学することができませんでしたが、多摩市でも、行政、市民、民間が協働し、飯田市を参考にして、気候非常事態宣言を発信する自治体として、積極的な取組みを進めていきたいと思います。

バス停は自宅前！　AIバス停「のらざあ」　長野県茅野（ちの）市

「近くにバス停があればいい」「スーパーにひとりでも行きたい」・・そんな市民の要求は茅野市でも同じでした。赤字続きだった路線バスを廃止し、国の補助金を使いながら実証実験をすすめ、2022年10月より「のらざあ」の本格運行を始めました。

「のらざあ」は、利用者が設定した行き先と時間に合わせた最適な配車やルート設定をＡＩがリアルタイムに行うシステムです。地元のバスやタクシー会社４社が８台のワゴン車等を共同運行し、午前８時から午後７時まで利用できます。スマホまたは電話で予約できますが、高齢期の方は電話が多いようです。利用者は１日200人程、要求は300人近くになることもありますが、車両数との関係で要求に応えられないので、来年度は２台増やす予定だそうです。

多摩市でも、高齢化が進むなかで利用者の都合に合わせるシステムが求められる時代になっており、公共交通の見直しは喫緊の課題です。運転手不足等も避けて通れない問題ですが、多摩市の地形や人口動態に応えられる「地域交通」のありかたを、民間交通と行政だけでなく市民も巻き込んで考えていくことが重要であることを強く実感する視察となりました。